

オーガニック給食の会

変わりゆくバトン、紡ぐ未来

～ 小さな集落が踏み出す大きな一歩 山出有機米プロジェクト ～

安川 潤

ここは愛南町の山間にある小さな集落、^{やまいだし}山出。知る人ぞ知る棚田の名所で、日本の原風景を今も変わらず守り抜いていることがこの集落の誇りです。山出で育てられるお米は、山間特有の寒暖差、石垣の照り返し、そして清らかな山の水の恩恵を受け、他にない透き通った美味しさを宿しています。



“大雨で棚田の石垣が崩れてしもたね”

“農業機械、肥料は高なる一方で、作るだけ大赤字や”

“異常気象で米が作れる環境でもなくなるし、俺らの代で終わりかもね”

地球温暖化に加えて急速に進む物価高の波は、今まさに、この集落の誇りを破壊しつつあります。子ども達が大人になったとき、この誇りが途絶えるだけでなく、今よりも住みづらい地球環境になる未来は、変えようのないことなのでしょうか。

“このまま失いたくない。この受け継いだバトンを次の世代に渡せるように”

この大きな課題に対して、僕たちなりの答えを見つけました。それが、環境に優しい農業への転換、つまり棚田米の有機化です。子どもたちにこの有機米を食べてもらい、食を通じて環境問題について一緒に考える機会を持ちたいという願いもあります。

しかし、ノウハウもなければどのように変えたら良いかも分からない僕たち。その時、手を差し伸べてくれたのが愛南町の町議 金繁さんでした。金繁さんの広い人脈を通じて、昨年 11 月に四万十市、昨年 12 月と今年 1 月には今治市といった先進地を視察し、有機農業に取り組む姿勢や圧倒的な行動力、その他、様々なことを学ばせていただきました。本当に感謝です。

**“環境にやさしいお米、有機米か〜！とりあえずやってみよう！
収穫できた有機米は、もちろん子どもたちに届けたいね！”**

この挑戦に手を挙げたのは、赤松さんご夫妻でした（旦那さん：林業関係、奥さん：子ども関係仕事を退職されたばかり）。今年4月から約1反ほどの面積で挑戦を開始。集落の農業メンバーや愛南農業指導班の福田担当係長の援助をいただき、栽培を進めました。収量は、250kgと少なかったものの、8月末に無事収穫を終えることができました。

しかし、安心できるのも束の間。次の課題（どうやってこのお米を子どもたちに届けるか。もちろん、願いは学校給食として届けること）が立ちふさがります。僕自身、管理栄養士の資格を持ち、学校給食にもわずかながら携わった経験があるため、学校給食に有機米を導入することの難しさは誰よりも理解しています。

“安川くんたちの有機米を学校給食で子ども達に食べてもらえるように”

学校給食への納品には、行政各所との連携・協力が必要不可欠です。僕たちは役場へお願いにいくことしかできません。難しいことは百も承知で、農林課へお話にいくと、“安川くんたちの有機米を学校給食で子ども達に食べてもらえるように給食センターとも話をしてみるね”と。

そして、この10月に給食提供されることになりました。今は収量が少ないため、スポットでの提供にはなりますが、一歩ずつ前に進んでいます。実現に向けて奔走してくださった農林課の松本農林課長、田村主幹には感謝しかありません。今後も、愛南町と一緒に前に進めていきます。

“来年も、再来年も、子ども達に届け続けられるように”

数年先も学校給食を通じて有機米を子ども達に届けるためには、規模拡大と安定供給が次の課題になります。有機栽培には除草剤は使えないため水田除草機の購入や品質担保のための保冷庫の手配といった莫大な資金が必要となります。この資金は、今後クラウドファンディングにて集めたいと思っています

今回、夢に大きく近づけたのは、多くの方の助けがあったから。受け継いだバトンの形は変わりつつも、次の世代に紡いでいくために僕たちは努力を続けます。

栽培状況 (YouTube)



インスタグラム

